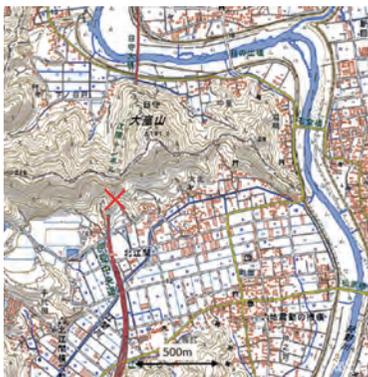


E033 江ノ浦凝灰岩の露頭・大北横穴群(静岡県GEO
DATA(25)特集：地学散歩(104))

| | |
|-------|---|
| メタデータ | 言語: ja 出版者: 静岡県地学会 公開日: 2023-01-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 増島, 淳 メールアドレス: 所属: |
| URL | https://doi.org/10.14945/00029286 |

E033 江ノ浦凝灰岩の露頭・大北横穴群



カシミール3D地図

新第三紀・鮮新世の火山岩類からなる静浦山地（通称・沼津アルプス）の山麓部には江ノ浦凝灰岩層が広く分布している。その岩相は多様で、高橋豊会員が静岡地学に投稿した地質図では、駿河湾に面して堆積する白色の凝灰岩を江ノ浦白色凝灰岩、内陸側に分布するものを長岡凝灰岩と大別している（高橋、1966）。長岡凝灰岩は熱水の影響で変色しており、褐色～緑色を呈する。

狩野川の左岸、伊豆の国市・北江間の山麓部には多数の横穴墓群が分布している。

大北横穴群は、7世紀後半～8世紀中頃の横穴が40基以上確認されている。土葬から火葬に移行する時代に作られ、火葬骨を納

めた石柩も多数発見され「若舎人」と文字を刻んだものは全国唯一のものである。

横穴は、褐色に変色した砂質の長岡凝灰岩・上部層を穿って作られており、露頭観察に適している。本遺跡は国指定の文化財であり、伊豆の国市が管理しているので、常に整備されている。尾根の西側には江戸時代から昭和初期にかけて稼働していた「横根沢石切り場跡」があり、産出した石材は、江戸時代後期の三島宿に多数設置された石燈籠として利用され、現在でも三島市内の寺社で観察できる。

（増島 淳）

高橋 豊（1966）：沼津市南部静浦山地の地質。静岡地学，7，5-9。